

# 耳の不自由な子どもたちに 音のある世界を伝えたい

日本各地では、多くの団体・個人が  
草の根レベルの国際協力に取り組んでいる。  
自ら現地に赴き活動する日本人が増える中、  
JICAは草の根技術協力事業として、  
こうした活動を積極的にサポートしている。



フィリピン人の教員に、補聴器特性測定装置を使って、補聴器のフィッティング方法を指導する中泉さん(右)

## 旭川から 途上国のためにできること

「わずかな音の違いが重要。しっかり聞き分けて」  
さわやかな春風がそよぐ、5月初旬の北海道旭川市。市内は  
ずれにある北海道旭川聾学校  
で、フィリピンの研修員3人が  
補聴器のフィッティング方法を  
学んでいる。彼女らを指導する  
のは、同校教員の中泉貢一さん  
(52)。旭川を拠点に活動する、フ

ィリピン耳の里親会の理事長で  
もある。

同会は、1992年に札幌市、  
旭川市の聾学校の教員らが中心  
となって設立したNGO。フィ  
リピンの5つの聾学校に通う、  
耳が不自由な子どもたちへの支  
援を続けている。里親制度を活  
用した奨学金支援、補聴器や検  
査機器の寄贈のほか、聾学校の  
教員と保護者を対象にした現地  
セミナー、日本での研修など、活  
動内容は多岐にわたる。

中泉さんは、同会の立ち上げ  
メンバーの一人。「同僚に誘われ  
て里親会にかかわるまで、開発  
途上国とはほぼ無縁でした」。初  
めて現地へ視察に行くことが決  
まったとき、「生きて帰れます  
か?」と尋ねたほどだと笑う。

しかしそのフィリピン訪問  
が、中泉さんの人生の転機にな  
る。「現地の聾学校は、電気も通  
っておらず、補聴器を付けてい  
る子どももわずか。ショックで  
した。何かできることはないか



フィリピン耳の里親会から寄贈された補聴器。  
日本製は性能がいいと評判だ

という気持ちだが、自然とわき起  
こってきたんです」。

それから17年、今では夫婦そ  
ろって里親会の活動がライフワ  
ークの一部となっている。さら  
に、中泉さんの周囲にも里親会  
の取り組みが伝わり、今では「里  
親になりたい」「通訳として協力  
できないか」など、たくさんの人  
が「地域のサポーター」として  
活動に参加している。

## 人の「顔」が見える 国際協力を

これまでフィリピンで行った  
セミナーは11回(6地域)、日本  
での研修は8回(21人)、寄贈し  
た補聴器の数は459台にも及  
ぶ。07年10月からは、JICA札  
幌の草の根技術協力事業のサポ  
ーターを受けながら、より精力的

に活動を続ける。

4〜5月にかけて来日した研  
修員3人は、マニラ市、セブ市、  
イロイロ市の聾学校の教員。以  
前、中泉さんが現地で行ったセ  
ミナーにも参加しており、日本  
で研修を受ける日を待ち望んで  
いた。「できるだけ多くのことを  
学んで同僚たちと共有したい」  
と、毎日徹夜で復習やレポート  
に励んでいた。

今回の研修目的の一つは、日  
本の現場を見て、乳幼児相談室  
※の役割や指導方法について学  
び、実感してもらうこと。旭川聾  
学校の川島敦子先生(47)は、「乳  
幼児相談室は、保護者の育児の  
悩みを聞いたり、耳に障害のあ  
る子どもの基本的なコミュニケ  
ーション能力を育成する場とし  
て不可欠です」と強調する。

しかしフィリピンでは、まだ  
乳幼児相談室の普及は進ん  
でいない。研修を通して、その必  
要性を再認識した研修員たち  
は、川島先生が取り入れている  
「絵日記」を使った授業にも興味  
津々の様子で、「自分たちの授業  
でもぜひ取り入れていきたい」  
と意欲を語った。

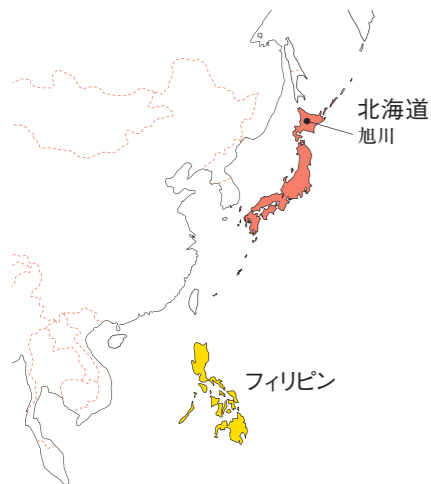
「ボランティアは長く続ける  
ことが大切。人と人がしっかりと  
顔を突き合わせて、お互いの  
「顔」が見える活動にしたい」  
と中泉さん。「これからも身の丈  
に合った国際協力を続けていき  
ます」。

フィリピンの教員たちは、研  
修やセミナーを通じて学んだノ  
ウハウを生かし、今日もまた、里  
親会と連携しながら聾学校の能  
力向上に取り組んでいる。



「絵日記は、乳幼児のコミュニケーション能力の向上や、親子が会話し意思を  
伝え合うための大切なツールです」と川島先生

(上)2008年1月、イロイロ市特殊学校で講義を行  
う中泉さん。「現地に行くたびに、新たな問題の発  
見があります」  
(下)現地では、聾学校で学ぶ子どもたちとの交流も  
大切にしている



### 途上国でNGOの活動をサポート!

JICAは、開発途上国で活動する日本のNGOへの情報提供  
の窓口として、23カ国(2009年6月現在)に「NGO-  
JICA ジャパンデスク」を設置している。NGOの現地での活  
動のサポートを行ったり、草の根技術協力などを通じて  
JICAとNGOの連携を強化するために、セミナーやワークシ  
ョップなども定期的に開催している。  
詳細はホームページ ([http://www.jica.go.jp/partner/  
ngo/support/japandesk/](http://www.jica.go.jp/partner/ngo/support/japandesk/)) を参照。

※聴覚に障害のある0〜2歳児の教育相談、個別・グループ活動を通じて、子どもの発達に適した療育や教育が受けられるように指導する。